

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 15 日現在

機関番号：10102

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008年～2012年

課題番号：20730563

研究課題名（和文）

G. S. ホールの児童研究と特別な教育的配慮の理論と実践に関する史的研究

研究課題名（英文）Historical Study of G. S. Hall' s Child Study, Theory and Practice of Special Educational Consideration

研究代表者

千賀 愛 (SENGA AI)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：10396335

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：G.S.ホール、児童研究、特別な教育的配慮

## 1. 研究計画の概要

本研究はアメリカで子どもの発達に関する科学的な知見の解明に着手した G. S. Hall の児童研究 (Child Study) に注目する。児童研究の先駆者であるホールを中心とするクラーク大学の児童調査・研究が同大学の地元であるマサチューセッツ州 Worcester 市を含むアメリカ東部の公立学校における特別な教育的配慮の実践と理論の形成にいかなる影響を与えたのかを明らかにすることを全体の目的とする。

## 2. 研究の進捗状況

## (1) ホールの児童研究と異常児研究

平成 20 年度は、1900-1915 年のクラーク大学におけるホールの児童研究と異常児研究を明らかにするため、1880-90 年代のホールの児童研究は発達の多様性や個人差の発見の過程という側面を有していたという仮説のもと、学齢児童の「標準的知能」に関心を示していた 1880 年代半ばから、学校教育に適用するために子どもの発達の多様性や個人差を重視した問題提起を行う 1890 年代の児童研究の特徴と変化を分析した。

## (2) ウスターの公立学校における教育問題

平成 21 年度は、1898-1910 年のウスターの公立学校における多様な困難・ニーズのある子どもへの特別な教育的配慮のひとつとして特別学校・学級がどのように位置づけられ、いかなる性質のものであったのかを明らかにすることを研究課題とした。また、G. S. ホールの弟子であったジョン・デューイの教育学と実験学校について、特別な教育的配

慮の観点から検討を行った。

## (3) 特別な教育的配慮と特別学校・学級

平成 22 年度は、米国マサチューセッツ州の「ウスター (Worcester) の公立学校における多様な困難・ニーズのある子どもの特別な教育的配慮と特別学校・学級 (1898-1910 年)」の研究に取り組んだ。1898-1910 年のウスターの公立学校における多様な困難・ニーズのある子どもへの特別な教育的配慮のひとつとして特別学校・学級がどのように位置づけられ、いかなる性質のものであったのかを明らかにするため、①公立学校における多様な困難・ニーズのある子どもへの特別な教育的配慮としてどのような対応がとられていたのか、②特別学校の開設経緯及び運営形態、③対象児の変化と学級種別の分化の 3 つの視点から分析を行った。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

これまで取り組んだ主な研究課題は、「19 世紀末から 20 世紀初頭マサチューセッツ州ウスターの特別学校・学級と特別な教育的配慮」であり、G. S. ホールの教育・心理学の思想的背景についても分析を行った。育児休業による一時的な中断はあったものの、研究に必要な 7-8 割の史・資料の収集と整理が終わり、これまで先行研究では未着手となっているクラーク大学の児童研究所の成立過程に関する詳細なデータを収集した。

次項で述べるように今後さらなる分析・検討を進めていく準備を進めている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

平成 23-24 年度の二年間は、G. S. ホールがクラーク大学に設立した児童研究所の設立過程と異常児研究について集中的に取り組んでいきたい。平成 23 年度は 9 月に日本特殊教育学会で「米国クラーク大学児童研究所(Children's Institute)における異常児研究と G. S. ホール」、11 月に日本特別ニーズ教育学会で「G. S. ホールとクラーク大学児童研究所(Children's Institute)の設立過程の検討」の 2 件について発表準備を進めている。また発表後に修正を加え、学術誌(査読有)への論文投稿も行う予定である。

最終年度となる 24 年度には、G.S.ホールの主著の一つである「教育の問題」(1910)における発達の個人差と特別な教育的配慮に関する分析を進めたいと考えている。

#### 5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計 2 件)

- ① 千賀愛、ウスター(Worcester)の公立学校における多様な困難・ニーズのある子どもの特別な教育的配慮と特別学校・学級 (1898-1910 年)、北海道教育大学紀要(教育科学編)、61 巻 1 号、75-90、2010 年、査読無し。
- ② 千賀愛、クラーク大学教育学科の児童研究とマサチューセッツ州 Worcester の児童・教育問題：1890-1900 年を中心に、北海道教育大学紀要(教育科学編)、59 巻 1 号、195-207、2008 年、査読無し。

[学会発表] (計 1 件)

- (1) 千賀愛、19 世紀末から 20 世紀初頭マサチューセッツ州ウスターの特別学校・学級と特別な教育的配慮、日本特別ニーズ学会、2010 年 11 月 7 日、岡山大学教育学部。

[図書] (計 1 件)

千賀愛、デューイ教育学と特別な教育的配慮のパラダイム、2009 年、風間書房。